

1. 評価結果概要表

作成日 2008年4月17日

【評価実施概要】

事業所番号	0873200356		
法人名	株式会社 メデカジャパン		
事業所名	岩瀬ケアセンターそよ風		
所在地 (電話番号)	茨城県桜川市岩瀬30-2		(電話)0296-70-8971
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成20年2月26日	評価確定日	平成20年7月14日

【情報提供票より】(H20年 2月 12日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 12 月 2 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤(パート含む)13人, 非常勤 人, 常勤換算 13人	

(2)建物概要

建物形態	<input checked="" type="checkbox"/> 併設 <input type="checkbox"/> 単独	<input checked="" type="checkbox"/> 新築 <input type="checkbox"/> 改築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	2 階建ての	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	有() 円	<input checked="" type="checkbox"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> 150,000 円	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,400 円	

(4)利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	16 名	男性	4 名	女性	12 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	6 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80.9 歳	最低 68 歳	最高 89 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	飯田医院 ・ 県西総合病院 ・ 富士見台歯科医院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近隣の市・町が合併され桜川市に変更になった。水戸線の岩瀬駅から徒歩10分の所にあり、自然環境に恵まれている。近隣には、病院・消防署・小学校・ショッピングセンター等があり生活する上では便利な環境にある。このホームにはデイサービスが併設されているため、利用者間の交流が図れ、生活の活性化につながっている。また、利用者はそれぞれのペースを尊重され、穏やかに明るい環境のなか生活されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営理念に基づいて、職員が理解されるよう徹底してきた。また理念を共有し、サービスの実践に向け日々取り組んできた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員が理念を毎日復唱することで、利用者がその人らしく生活する支援が出来るよう心がけている。管理者・ケアマネジャーが中心に行っていたが、職員の意見も取り入れて作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	ホームでの取り組みの報告や地域からの意見など聞く場としている。会議の中での意見等取り入れて、ケアに活かせる取り組みをしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	月1回「そよ風だより」を送付し、家族へ状況報告等行っている。さらに状況に応じて報告している。苦情に対してはその都度職員と話し合いを持ち、対応している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	市主催の音楽会、運動会への招待等いただいているが、状況によってなかなか参加できないこともある。そのため、ボランティアやデイサービス等参加するよう支援している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を徹底するために、朝礼で復唱している。見える場所に掲示されているが、細かい意味を十分にされていない。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、理念について自分の中で、解釈されている。利用者の希望と身体の状態に合わせてケアにとりくんでいる。		理念については、新人へのオリエンテーションの徹底がされていない。理念を把握し、意識してケアに取り組めるよう期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。回覧等を利用者と一緒に行っている。しかし、参加できる利用者が限られてしまっている。ボランティアの受け入れはしている。		自治会やご近所への付き合いを活性化するためにも身近な所から取り組んでいけることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が中心となり、前回指摘されたことの改善に取り組んできた。家庭的な雰囲気作りに努めてきた。自分たちの気づかない所に気づかせてくれる良い機会であると感じている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の意見等、利用者により良い支援を提供できるよう努めている。職員も機会があれば参加し、サービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営会議の3～4月に1回で機会がある。しかし、それ以外の行き来はしていない。	○	積極的に市町村に足を運んで関わりを持っていくことを期待したい。そして、サービスの向上につなげていけると良いと考える。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月間報告「そよ風だより」を作成し家族等へ送付している。金銭管理については、領収書等添付している。新人職員については定期的便りで紹介している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会2回/年行っていたが都合により1回へと変更になる。家族からの意見、苦情は随時受付している。今後は、アンケートをとって行きたいと考えている。		家族会が変更になったことで意見等少なくなる可能性が高くなるが考えられるため、アンケートの実施や、さらにコミュニケーションを図りながら合わせて活用していったほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動は最小限にしている。職員の変化がわかる利用者へはそのつど説明し理解してもらうようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は希望で参加できる環境にある。研修に参加した職員は伝達会を行っている。勉強会は不定期に開催されている。		職員間の意識統一のためにも定期的な勉強会を開催する機会づくりを期待したい。委員会等設けることで定期的な勉強会への意識づけにつながり、質の向上に反映されたいと考える。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会等は参加していない。近くにグループホームができてはいるが、まだ交流が持てていない状況である。	○	同業者との交流をもち、お互いの情報交換の場を育ててほしい。そして、サービスの向上につなげていけることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学の時はお茶を飲んだりしている。入居当初は、利用者の安全を考え、家族や職員と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔ながらの慣わしを習ったり、楽しみを活用しながら過ごしている。お互いに支えあう関係作りを築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、希望を聞きながら、意向の把握に努めている。意向に添えない時には、日を改めて希望を聞くようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員や家族の意見を取り入れながら、計画作成している。疑問点や状況が変化した時には、カンファレンスを持ち、そのつど話し合いがされる。		計画を立案する際、家族や利用者を含めたカンファレンスの開催を期待したい。家族の要望、利用者の希望が反映されるとその人らしい計画につながっていくことを期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリング用紙は、3ヶ月に1度の見直しが行え、日々の記録が計画を反映したものになっている。急激な変化の時は、計画の見直しがされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスとの各種行事に参加したりして交流している。家族会など家族との交流の場として、デイルームを利用している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけがある時には、家族に付き添ってもらっている。1週間に1回の往診があり、緊急時の対応も受けられるようになっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	指針マニュアルはできていない。家族の希望があるがターミナルは受け入れない方針である。	○	ホームで受け入れられる基準を作成することで、家族にも理解できるのではないかと考える。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に敬意を持ち、言葉かけや接し方に配慮している。利用者の性格や生活暦等把握し、その人らしい生活が出来よう心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切に、希望を聞きながら、その日その日を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に食事を作ったり、片付けを行っている。食事中も会話を楽しみながら過ごしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後に入浴が多いが決められてはいない。希望時の入浴支援は可能である。拒否される利用者は少ないが、3日に1回は入浴している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割が持ちたい時には、持てるように支援されている。嗜好品も楽しめるように、家族の協力も得られている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や外出などは利用者の希望に添えるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自室には鍵はかかっている。玄関は、家族の要望により鍵をかけている。		鍵の開けられる時間帯や利用者の希望に合わせた開錠を常に心がけてほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練は年2回実施している。地震についてはまだ考えていない。緊急避難時の備品は少し準備されている。	○	地震についてマニュアル作成や訓練について考えてほしい。また地域の協力について確認しておいてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が管理したメニューを基に食事を作成している。水分チェック表を用いて必要量の確認をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、自由に座ったり、休んだり出来るようになっている。自然な光が入り、心地よい空間である。部屋の片隅には、観葉植物などおかれ、利用者や職員が育てている。家庭での生活感に近づける工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や外出時の写真等飾られている。利用者の希望で使い慣れたものの持ち込みは出来るようになっている。		